経営理念「一極二元思考」

当社の企業理念は「永遠のあと百年」ですが、昨年の東証一部上場、当期の売上100億円大台乗せを機に、経営理念を「一極二元思考」という六文字に表しました。

一極二元とは

一極二元思考というのは、物事が二つに分かれ別々に存在している（二元論）のではなく、一つの物事（一極）が相反する二つの要素（二元）で構成されている。言い換えれば、相反すること（二元）が一つの物事（一極）の成立条件になっているという考え方です。よくコインにたとえられますが、相反する表と裏が表裏一体となってコインとして初めて成立する、さらに言えば、表裏は相反することによって互いを補い（相補性）、一つのコインを成立させている。という考え方です。

世の中の多くの経営者から「不易流行」という言葉を聞きます。その意味は、変えてはいけないこと（不易）と、世の中の変化に応じて変えなくてはならないこと（流行）があり、その線引きが経営をやる上で大事だ、というものです。一極二元思考では、そうではなくて、常に変わることによってのみ変わらないことが担保される、という意味に捉えます。人間の細胞は、早いもので数日、遅いもので数か月で入れ替わり、脳細胞や神経細胞は変わらないと云われています。入れ替わる細胞が常に入れ替わっていないと、脳細胞や神経細胞は死滅し、生命維持（一極）ができなくなります。鈴木さんも佐藤さんも常に変わることによってのみ鈴木さん·佐藤さんでいることができる。つまり、一極二元思考とは、さまざまな事象を部分に分割するのではなく、構成要素の相互作用として理解しようとする思考です。

フラクタル構造

その相互作用は一つの階層だけでなく、低い階層から高い階層まであらゆる階層に適応できる構造をもっています。その構造は、一極が二元で構成され、その二元がそれぞれ一極に成り得て、またその一極が二元で構成される。これがどこまでも続くフラクタル（自己相似）構造です。樹木の枝分かれ·雪の結晶·腸の内壁·肺の構造など自然界のなかで数多く見られます。

当社の事業も一極二元構造になっています。比較的低い階層である賃借駐車場部門は、固定方式（利益率は高いが赤字リスクがある）と還元方式（利益率は高くないが赤字リスクが低い）で構成され、このバランスによって成り立っています。一つ高い階層である駐車場事業は賃借駐車場（資本投入は小さいが解約リスクがある）と保有駐車場（資本投入は大きいが解約リスクはない）で構成され、同様にそのバランスで成り立っています。さらにもう一つ高い階層の事業構造の構築を図って開始したのが駐車場事業に対する太陽光発電事業です。太陽光発電事業を追加することにより会社全体のキャッシュフローが大きく改善し、それによって保有駐車場への投資が拡大できるという相互作用をもたらします。多くの階層で相反しながら相補う事業を構築し、その厚みが増すほど相互作用は増大し、企業の持続可能性が向上します。

新入社員研修や社員の育成研修も一極二元思考に拠ったやり方をしています。企業の研修といえば多くの場合、知識の習得をイメージしますが、当社では、研修（一極）は、実習（身体を使う）と虚習（頭を使う）で構成されると考え、両者の相互作用が生まれる心身一如となるようなバランスにしています。昨年自社開発した営業支援システムである「SFA」は、iPadを活用したものですが、これもただ便利というだけでなく体と頭をバランスよく

使う仕組みになっていると同時に営業部門と管理部門の相互作用が働くように設計されています。体を動かし現場をまわりタブレット端末に入力をし、出力をする過程で無意識のうちに頭も動いている。自ら学び始めるキッカケとしての役割をこの端末がはたしてくれています。いったん学びモードに入った社員からは「教えてもらっていないので出来ません」というフレーズも、営業と管理部門の間でありがちな「その仕事は私の部署の担当ではありません」という言葉も出てきません。

シンクロ現象

相互作用や全体を有機体として捉える考え方から、前述の空間的なフラクタル構造と一体になっていると考えられるのが時間的なシンクロ(同期)現象です。シンクロ現象とは、リズムが合う·タイミングが合うということですが、最初はバラバラだった個々のリズムの中から時間的な秩序がひとりでに出現し、みんなのリズムが揃ってくる。さらに、揃っている時間と揃っていない時間のリズムも揃ってくるということです。フラクタルと同様にこれも自然界のなかに数多く見られます。心拍·呼吸·体内時計·蛍の光の点滅·蛙の鳴き声などですが、細胞のレベルでも多くの細胞がシンクロすることによって生命活動を可能にしています。

つまり、一極二元思考は、人間も自然の一部であり自然と同じ構造になっており、これに従うことにより社員の自然活力を最大限引き出そうとする経営理念を表しています。余談ながら、今の世の中ビッグデータの時代といわれていますが、本質的にこれは、近代科学が対象とする一定の条件のもとでの因果関係の解明ではなく、相互作用の結果としての相関関係の活用を問う時代といえると思います。

ストーリー性

近代科学が概して部分的な一般法則を見つけるのに対して、一極二元の考え方は、どのようにやれば人間の潜在能力を最大限引出し、より良い成果をあげることができるかという人間の活学です。「どのようにやれば」は、「どのツボを押さえれば」と「どのような順番でやれば」を意味します。したがって、一極二元思考には、ストーリー性が必然的に色濃く出てきます。多くの場合そのツボや順番は部分的な課題に直接関係のない所からスタートし、グルッと一周回っているうちにいつの間にか部分的な課題も解消していた、という仕方のストーリー性です。一見患部に直接関係のない指圧や足裏のツボ押しに似ています。

創業時において当社の駐車場開発形態は賃借駐車場のみでした。創業三年目に後発の当社がどのようにして賃借駐車場を拡大しようかと考えたとき、多大な資本を必要とし直接的にはもっとも駐車場の拡大が遅いと思われる保有駐車場形態を開始しました。そのストーリーは、保有駐車場用地を購入する過程で、地元の不動産仲介会社とその資金を調達する金融機関の両方と関係が密になる。そうすれば、営業員の少ない当社であっても駐車場用地の情報が多く入ってくる。そしてその情報の中には賃借駐車場の情報も多く含まれる。保有駐車場をオープンした地域や商店街では存在感が高まり、さらに多くの用地情報が入ってきて駐車場シェアが高まり地域一番になるところも出てくる。特に地方都市では行政が中心市街地活性化に注力しており、自治体の街づくりにとって欠かせない存在になる。そうすると･･･といった具合にストーリーが展開していきます。

当社の企業理念「永遠のあと百年」も経営理念「一極二元思考」も両方ともコンテンツを表していません。もしも目的と方法のどちらか一方にでもコンテンツを明示したとすれば、明示した一方はそれ自身に限定され、一方が限定されることによって他方をも限定することとなります。自らの理念によって自らを閉じた世界に封じ込めないよう、企業理念には目的論を、経営理念には方法論を表したつもりです。パラカは常に変わることによってのみパラカでいることができるからです。

※参考文献:「一目均衡表」、「日本罫線史」、「歎異抄」、「教行信証」、「方丈記」、西田幾多郎著書、「古事記」、「三太郎の日記」、「毛利家文書」、「広島県史」、「山口県史」、「今こそ、東洋の知恵に学ぶ」他鴇田正春著書、「東洋の予知学」他高尾義正著書、養老孟司著書、内田樹著書、「ストーリーとしての競争戦略」楠木健、「世界は分けてもわからない」「生物と無生物のあいだ」福岡伸一、「日本史の謎は地形で解ける」他竹村公太郎著書、「非線形科学同期する世界」蔵本由紀　等